

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503932		
法人名	株式会社 ジェイ・ライフ		
事業所名	グループホームかわしも公園(1F)		
所在地	札幌市白石区川北2条3丁目7番13号		
自己評価作成日	令和5年12月27日	評価結果市町村受理日	令和6年3月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170503932-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和6年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様一人ひとり、尊重した暮らしが出来るように生活歴の把握、想いや意向の把握に努め、生きがいをもち、自由でのびのび生活出来るよう、家庭的な雰囲気の中で、職員一人一人が入居者様と生活をしていることを意識し、落ち着いた環境でゆっくりとコミュニケーションをとっています。職員との信頼関係を育て、少しでも本音が聞ける様、入居者様に寄り添い、日々業務を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は木造2階建てで閑静な住宅街に立地し、2ユニット18名が入居している。対面には規模の大きい川下公園があり、2路線のバス停に隣接している。敷地内に15台分の駐車場を備え交通の便が良く、近隣に内科、歯科医院、高校、中学校の他によく利用しているコンビニが2店舗ある。利用者の多くが近隣からの入居者で町内会との結びつきがあり、回覧板の閲覧や運営推進会議での話題などを伝えている。町内と事業所が連携しての避難訓練や日常の挨拶、餅つき行事への参加、敷地内にバス停への近道となる通路の提供と除雪を住民が担うなど交流関係を継続している。日常の生活の様子や行事内容などを写真にコメントを付けてブログで家族に知らせている。面会専用のプレハブを備え家族から好評を得ている。定期的に内部研修で看取りケアを学び職員の多くは看取り経験をしているが、要望がある時には個人の状況に合わせ研修を行い、利用者や家族に寄り添ったケアに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者が業務の確認、ご家族様への報告、関連機関へ相談、報告を行い、職員と情報共有を行っています。	開設時に職員が作成した事業所理念をパンフレットに掲載し、リビングと各スタッフルームに掲示している。毎朝の意識付けと採用時研修の際に職員と共有するようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベント行方際、ホームに来て頂ける様、地域周辺の住民にお声掛け行います。	回覧板で町内の行事情報を得ている。町内の川北祭りには職員と利用者が参加している。住民とは挨拶や会話を通して交流し、住民用通路の提供、餅つき参加者へのおすそ分け、地域や町内合同の防災訓練を運営推進会議を通じて参加案内がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年6回の運営推進会議、町内会の講座等、行政の依頼により説明させて頂いております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の外部評価時の評価結果を配布し、説明しています。会議の最後に必ず質疑応答の時間を設け、お答えしています。	町内会副会長、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者家族が出席し年6回開催している。運営、行事、事故報告等を行い、意見や提案などをサービス向上に活かしている。議事録は家族や役員に郵送している。	コロナ禍の面会制限で中断していた運営推進会議に新旧の利用者家族の参加を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の管理者会議、入居状況報告書を活用し、不明な点があれば、電話で確認し連携を保っています。	区の介護保険課、福祉課、消防予防課とは空室情報等、担当者と密に連絡を取り合っている。申請や継続等の書類などは電話、メール、FAXで連絡を取り合い指導、助言を得ている。グループホーム連絡者会議や白石区管理者会議で情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定例会議で身体拘束関係の資料、情報をまとめ、職員との話し合いにより意識向上に努めています。	3ヶ月毎に「身体拘束等適正委員会」を開催し、毎月の内部研修会で身体拘束や虐待の弊害を学びケアに反映させている。起床時の転倒予防策としてL字バー、タッチアップ、サイドレールの設置、家族の同意を得てセンサーを使用し、全職員で見守りを行っている。玄関、テラスは不審者対策から常時施錠しホール前扉は状況に応じて施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例会議で身体拘束関係の資料、情報をまとめ、職員との話し合いにより意識向上に努めています。		

グループホームかわしも公園(1F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議にて、包括支援センターの相談員の方に説明をして頂く等知識習得に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際の契約内容の説明の徹底、面会の際のお声掛けの際に疑問、希望等を聞くようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定例会議を利用し、疑問、不安を解消出来るよう心掛けております。ご家族様と信頼関係を築いていき、面会、訪問時はお声掛けさせて頂いています。	利用者とは日常の関わりから、家族とは電話や来所時に要望や意見の把握に努め記録して、申し送り時や定例会議で取り上げてケアに反映させている。家族専用ブログで発信している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員に無記名のアンケートを行い、可能な限り意向を尊重しています。	管理者は職員が定例会議やいつでも自由に発言する機会を作っている。全職員(パート職員含む)とは年1回の面談を行ない要望や意見、気づき等を聞き取るように努め、人事評価も行っている。資格習得には休暇や経費などの支援を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業条件の改善、有給消化の喚起、疑問、不安が無いよう説明、要望等がある場合、代表者は随時聞き入れる姿勢で対応しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度の定例会議での学習以外にも法人内研修を開催し、学習しやすい様な環境を提供しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市・区の管理者会議等で情報を定期的に代表者と打ち合わせる会議を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限りお一人にはせずお声掛けし、職員の顔を覚えて頂ける様、お声掛け、職員間での情報共有を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が中心になり、ご本人様及びご家族様の要望等が気軽に話せる環境を作れるよう、職員と心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で、ご本人様、ご家族様の状況を出来るだけお聞きし、最善を考え、分かる範囲で説明しております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の出来る事を尊重し、行えるよう心掛けています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの電話を利用し、ご家族様からの電話、ご家族様と話したい時の取次を行い、ご家族様がいつでも来られるよう面会を受け付けていますが、コロナ禍もあり、面会はご予約にて対応しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	面会時には、いらっしゃった方の写真を撮らせて頂き、いつ誰が来たのか後で分かるように写真作成し、ご本人様にお渡ししています。	面会簿は一覧用と個人別用に使い分けている。家族は予約の上、別棟で15分程度の面会を楽しみ、個室面会は状況に合わせて行っている。理美容は2ヶ月毎に訪問があり、帰宅は家族の協力を得て行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の部屋の行き来等、トラブルにならない程度の見守りをしながら、交流を促しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからも近況をお知らせ頂けることもあり、必要に応じ相談、支援をしています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から職員が寄り添い、ご本人様のご希望、ご要望を話して頂けるように、信頼関係作りを行っています。	アセスメントシートを新規に作成し更新している。意思疎通が困難な時は動作、表情、仕草から、推察し職員間で話し合い家族に確認して介護記録と家族連絡票に記入しケアに反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に提出頂く資料の中に、生活歴、職歴、既往歴等を記入して頂き、把握に努めています。またご本人との会話の中で知り得た情報を共有しています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変わる体調等、入居時より継続して状況の把握に努め、情報共有しています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者の職員以外にも、モニタリング、アセスメントを行ってもらい、きめ細やかなプランの作成に努めています。	サービス担当者と検討し介護記録、主治医、看護師、職員、利用者や家族の要望・意向を反映させた短期3ヶ月、長期6ヶ月の介護計画書を作成し家族の同意を得ている。モニタリングは全員で行い、状況変化時には都度見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、タブレットを使用し、日々行っております。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	マンツーマンでの対応も計画に盛り込み、ホームだから出来ないという概念を取り払う努力をしています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホームでも利用可能な市のサービス等、必要に応じサービスを提供しています。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状況に応じ、往診、通院等医療連携し、ご本人様、ご家族様が安心出来るよう、心掛けています。	専門医への受診は状況に応じ職員が同行している。協力医は月2回の訪問診療で健康診断と採血、歯科医は随時診断と治療、口腔衛生指導を行い、看護師は週1回の健康管理と相談や24時間の協力体制をとっている。予防接種は当事業所で実施し、投薬はスタッフルームに施錠保管している。		

グループホームかわしも公園(1F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	いつもと違う状態であれば、バイタル測定、週に一度の訪問看護師、管理者に報告の徹底を行っています。医療連携が必要と判断した場合、速やかに関係機関へ連絡調整を行っています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要な場合、基本的に入院準備を職員が行い必要であれば同行、その後、ご家族様へお繋ぎしております。定期的に病院へ状態確認のお電話をしています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の要望を聞き、主治医の役割、ホームで出来る事、出来ない事、リスク等を説明して納得して頂きながら、支援行っています。	入居時に「重度化に関わる指針」、「看取り同意書」について書面で説明し同意を得ている。利用者に状況変化がある時は主治医から家族への説明があり、家族の要望に沿うように配慮している。定期的な看取り研修の他に、新たな研修を受けるなど主治医の指示のもとケアに取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時より、特変時の対応を徹底、指導し職員の不安を解消しています。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の実施している防火訓練時、避難の手順を確認し有るの際に備えています。	年2回の火災避難訓練(1回は夜間想定)と水害避難訓練を1回実施している。事業所や地域独自の避難訓練を相互に連携して実施している。飲料水と食料品(3日分)、ジーゼル発電機(ボイラー以外オール電化)、照明、カセットコンロを備蓄している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様への敬愛の念をどのように感じ取って頂くか等、職員の理念の事も話合っています。	研修会で接遇マナー、スピーチロックの弊害を学び誘導や介助時には語調、言葉使い等利用者への人格や尊厳を損ねないケアに反映させている。写真、氏名、個人情報については入居時に説明し同意を得ている。重要書類は事務室に保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様に選択をする自由を提供するよう、声掛けにもこだわっています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のお手伝いから、その日の天気等を考慮して、できる活動を相談しています。			

グループホームかわしも公園(1F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	来客時、お好みの衣類を選んでもらえるようにお声掛けしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえから味付け、盛り付け、配膳、下膳、食器洗い等、出来る事をして頂いています。	メニューに沿った食材を利用者に合わせて調理や味付けをしている。行事食は季節毎に旬なものを選び誕生日には市販のスポンジを使いデコレーションケーキで祝っている。寿司、マグロ丼、ちらし寿司が喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べた量、水分等は毎食記録しています。また、個々の咀嚼回数等も把握し、判断基準の一つにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアのお声掛けを全員に行い、毎食後職員が確認しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時の誘導時間、誘導方法は会議等で職員全員で情報共有、徹底しています。	排泄パターンにより、動作やサインを見逃さず時間誘導での自立排泄支援をしている。ポータブルトイレは常設せず状況に合わせて使用し、布パンツを基本に、リハビリパンツ、パッドや全介助者にはオムツ使用等使い分けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の申し送り時、排便の有無、何日出ていないかの報告を受けています。個人の状態により職員が水分補給のお声掛け、腹部マッサージ等対応しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	予定は立てておりますが、お声掛けして、ご本人様の体調を考慮しながら入浴するか決めて頂いています。拒否のある方には誘導方法を変えながら入って頂ける様配慮しています。	週2回の入浴を基本に、シャワー浴や清拭、同姓介助、2人介助での支援をしている。車椅子利用者には身体状況に配慮しながら、湯舟と浴室の清掃、湯は都度交換し、足ふきマットは個別のものを使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る前の室温、湿度、明るさ等を確認し、安眠できるよう整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の成分、副作用等、会議等で確認しています。また届けられた薬の確認、配薬の確認を徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常のお手伝いのお声掛け、集団レクリエーションの他、個人レク、嗜好も考慮し実施しています。		

グループホームかわしも公園(1F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中、外出制限を行っていましたが、5類に引き下げられた事で、周辺の散歩、地域のイベント等に参加しています。	職員同行のもと事業所付近や近隣公園への散歩、年1回の地域行事「川北まつり」を職員と共に参加し楽しんでいる。菜園でのトマト、ピーマン、枝豆やジャガイモなどの収穫を楽しんでいる。状況を見ながら季節毎に平岡公園、川下公園等への外出を検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の趣向品等の買い物の精算時、ご本人様のお小遣いをお渡しし直接精算をして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎは常時行っています。ご家族様への年賀状はホームで用意し、書ける方は直接手書きして頂いて郵送しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナ禍で外出が出来ない中、室内の共有スペースに季節の行事の写真等を掲示して季節を感じて頂いています。	広いリビング兼食堂の大きな窓からは日中、陽が差し込み明るい。暖房パネル、エアコンや大型加湿器で快適な生活空間を保っている。食卓やソファなど大型の物を配置しテレビの歌番組、健康体操、ビンゴゲームや貼りえ、季節毎の行事写真や日常生活写真を展示するなど居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに設置している共有ソファでお一人、あるいはお話をしながら利用されています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居相談時にご家族様に説明させて頂き、馴染みのある物を出来るだけ持ってきていただいています。	居室入口には手作りの表札が掲げられ、6.5畳の室内にはクローゼット、照明、TV配線、温水パネルを設置している。整理ダンス、仏壇、テレビ、写真、イス、ベッドなど使い慣れたものを持ち込み、毎日の清掃や1週毎のシーツ交換等清潔保持に務めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様のその日の状態の把握を心掛け、体調に即した事をお手伝いして頂いています。		